

会 報

No.61 (1998年11月)

目 次

- ◆第11回評議員選挙について 1
- ◆第21回 (1998年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その3) 2
- ◆第21回総会のご案内 3
- ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について 4
 - 山田科学振興財団1999年度研究援助
 - 新化学発展協会平成11年度研究奨励金
- ◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ 6
 - 第12回トヨタコンファレンス公開講演会
 - 千里ライフサイエンスセミナー
 - さきがけ研究21研究報告会
 - 第13回「大学と科学」公開シンポジウム『生き物の形づくり』
 - 日本学術会議生物系薬学研究連絡会議シンポジウム
 - 東北大加齢研/CREST シンポジウム
 - 国際シンポジウム「両生類生物学の研究最前線」
 - ICSdT 第1回国際会議
 - 理化学研究所脳科学総合研究センター チームリーダー公募
 - お茶の水女子大学理学部生物学科教官公募
- ◆GENES TO CELLS 編集者の変更について10

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会 第11回評議員選挙について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第11回評議員選挙を行います。そのため、丹羽修身（かずさ DNA 研究所）、岡崎孝映（かずさ DNA 研究所）、島貫瑞樹（かずさ DNA 研究所）の3氏が選挙管理委員として会長より委嘱されました。

次いで選挙管理委員3名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、1998年8月31日までに入会手続きを行った正会員とします。同封の「会員名簿」より10名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入下さい。投票用紙を同封の小封筒（投票用紙在中と印刷）に入れ、封をした後、同封の送付用封筒（選挙管理委員会御中と印刷）に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入のうえご送付下さい。

投票締切日：1998年12月7日（月）必着

開票予定日：1998年12月11日（金）

当選者の決定：得票数の多い順に20名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。

なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意ください。

- 1) 投票用紙に11名以上連記した場合。ただし10名以下の場合には有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第7条3項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、無効といたします。

饗場弘二、大石道夫、小川英行、榊 佳之、品川日出夫、中西重忠、三浦謹一郎、村松正実

1998年11月1日

日本分子生物学会選挙管理委員会

丹羽 修身

岡崎 孝映

島貫 瑞樹

〈参 考〉

会 則（抜すい）

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から正会員の投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員任期は2年とする。

細 則 (抜すい)

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して3回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に20名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆第21回 (1998年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その3)

第21回日本分子生物学会年会は、1998年12月16日(水)から19日(土)までの4日間、パシフィコ横浜で開催されます。プログラムの編成も終わり、準備は順調に進んでおります。

本学会では、研究分野の広がりや急速な会員数の増加にともなって、発表形式に毎年新しい工夫がなされて参りました。しかし、昨年の京都の年会で若い会員の意欲を刺激する形式が採られ、成功したのをみて、本年も昨年と同様、シンポジウム、ワークショップ、ポスターの発表形式にいたしました。

プログラム委員会では、シンポジウム12題、ワークショップ32題を企画しました。これは、前回の会報 (No. 60) 後に希望があった2題のワークショップ (組換え、複製) の追加を含んでおります。運営については、それぞれの世話人の方々にお任せし、形だけにとらわれない活き活きとした学会になるように要望いたしております。したがって、ワークショップに選ばれなかった方で、演題提出後に著しい発展がある場合には、是非11月中に世話人の先生にご相談下さるようお願いいたします。

本年は、ポスター発表への応募が2,900題を越えました。この数は、比較的広いパシフィコ横浜の展示会場が4日間に分けてもほぼ一杯になるほどの数であります。なるべく多くの発表をご覧になれる様に、ポスターは1日中展示いたします。

また、バイオテクノロジーセミナーは今年は15題が開催されます。

およそ20年の歳月を経て、日本分子生物学会は、会員数、演題数において巨大なものになりました。そして、まだその伸びは続いています。青年期を迎えた本学会が、その若さを失わないためにも、若い研究者の積極的な討論への参加を期待します。本学会で光ることが日本の分子生物学を世界に光らせることになるよう活発な討論をお願いいたします。

概要は次のとおりです。詳細は同封のプログラムをご覧ください。

1. 会 場：パシフィコ横浜 (横浜市西区みなとみらい1-1-1)
2. 会 期：1998年12月16日(水)～19日(土)
3. 参加受付：1998年12月16日(水)午前8時15分より
当日参加費：正会員 10,000円、学生会員 7,000円、非会員 11,000円

4. 発表について：

シンポジウム：12月16日～19日 午後12時30分～3時

ワークショップ：12月16日～18日 午後4時～6時30分

ポスター発表：12月16日～19日 午前9時30分～午後12時

5. 総会：12月18日 午前11時30分～午後12時15分（メインホール）

6. バイオテクノロジーセミナー：12月16日～19日 午前9時30分～11時30分

7. 連絡先：〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西 内

第21回日本分子生物学会年会 事務局

TEL (06) 873-2301、FAX (06) 873-2300

◆第21回総会のご案内

第21回年会の第3日目に、日本分子生物学会第21回総会を下記により開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願いいたします。

(会長 大石道夫)

記

日時：1998年12月18日（金） 午前11時30分～午後12時15分

場所：パシフィコ横浜 メインホール（1階；A会場）

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会推薦の研究助成、学術賞について次の方々が採択されました。

1. 山田科学振興財団1998年度研究援助

川上浩一（東京大学医科学研究所 助手） ゼブラフィッシュのストライプパターン形成を制御する F-box/WD40リピート蛋白質の機能解析

2. 1998年度ノバルティス（旧 チバガイギー）科学振興財団海外学会出席助成が高橋芳樹氏（北海道大学薬学部）に与えられました。

本学会選考委員会の審査に基づいて、下記の方々を推薦いたしました。

1. 第25回（平成10年度）日産学術研究助成

續 輝久（九州大学医学部 教授） 活性酸素による DNA 傷害とその防止・修復の分子機構

渡辺直子（東邦大学医学部 助教授） アポトーシスによる炎症性サイトカインの産生制御機構

2. 第7回（平成10年度）木原記念財団学術賞

森田 隆（大阪市立大学医学部 教授） 哺乳動物における相同染色体対合の分子生物学的研究

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 59に一覧として掲載しています。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

日本分子生物学会 選考委員長 饗場弘二

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻

FAX (052) 789-3001

3. 提出期限

財団等の締切りの1か月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

○山田科学振興財団 1999年度研究援助

1. 援助の趣旨および内容：
 - 1) 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対象としません。
 - 2) 援助額は1件当たり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考いたします。
 - 3) 援助金を給与に充てることはできませんが、特に財団が指定した場合を除き、他の用途は自由です。
 - 4) 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。
2. 推薦方法：
 - 1) 推薦者：本財団が依頼した学(協)会の代表者
 - 2) 推薦件数：1推薦者ごとに2件以内
 - 3) 推薦手続：推薦者は以下書類を整えご送付下さい
 - ① 所定の推薦書用紙またはその写しに必要事項を記入したもの 4部
 - ② 添付書類(研学(99)-5/8 ページ参照)
3. 記載上の注意：
 - 1) 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
 - 2) 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込みをすることの承諾を得て下さい。
4. 推薦締切期日：

本財団に推薦書が到着する締切期日は1999年3月31日。
5. 選考方法：

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。
6. 選考結果の通知：

1999年7月末までに推薦者および代表研究者等宛て文書にて通知します。
7. 援助金の贈呈：

選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈いたします。
8. 推薦書送付先および連絡先：

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544-0012 大阪市生野区巽西 1-8-1
TEL(06)757-3311(代表)
9. 研究の成果および会計の報告：

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出および研究交歓会での発表をしていただきます。
10. 付記：
 - 1) 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
 - 2) 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団、Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷1部、また著書の類にあってはその1部をご寄贈願います。
 - 3) ご提出いただきました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

○新化学発展協会平成11年度研究奨励金

(注)新化学発展協会では、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図ることを目的に、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対して、下記に従って研究奨励金を交付いたします。研究奨励金の交付を希望される方は、下記の研究課題の中から1つを選び研究計画を作成し、略歴、既発表論文一覧表とともに協会事務局まで提出して下さい。

なお、研究課題の説明および応募要項等の詳細は、協会事務局までお問合せ下さい。インターネットご使用の場合には、協会ホームページに研究課題の説明および応募要項の詳細を掲載していますので、ご利用下さい。

1. 研究課題：

〈先端化学技術分野〉

- ① 新規反応場を利用した環境負荷低減型反応及びプロセスに関する研究
- ② 高分子の関与する反応のシミュレーションに関する研究

〈新素材技術分野〉

- ③ カーボンナノチューブ系インテリジェント材料の応用展開に関する研究
- ④ 環境浄化機能材料の開発に関する研究

〈電子情報技術分野〉

- ⑤ ナノ材料の構造制御技術と光・電子材料への応用に関する研究
- ⑥ 新規な材料技術による電子・磁性材料の薄膜形成に関する研究

〈ライフサイエンス分野〉

- ⑦ 生体分子の選択技術の開発と構造解析、分子設計を駆使した機能性物質の創製技術に関する研究

- ⑧ 金属イオンならびにその配位タンパク室の関与する細胞のシグナル伝達機構の解明に関する研究

2. 応募資格：

大学またはこれに準ずる研究機関において研究活動に従事する者であって、39歳以下(昭和34年4月1日以降に出生)の者。

ここでいう「大学」とは、国公私立大学、国公私立大学院/大学院研究所、国公私立大学附置研究所/附属研究所をいい、「これに準ずる研究機関」とは、大学共同利用機関、高等専門学校であって、国立試験研究機関、公立試験研究機関、特殊法人試験研究機関、公益法人(財団法人、社団法人)試験研究機関は含まない。なお、「研究に従事する者であって、39歳以下の者」には学部生、大学院生は含まない。

3. 件数および金額：

原則として各課題1件とし、1件につき150万円交付。

4. 条件：

1～2年以内に協会の研究会などで研究成果を報告することなど、詳細は応募要項をご覧ください。

5. 応募締切：平成11年2月1日(月)協会必着
6. 交付時期：平成11年6月(予定)
7. 応募・問合せ先：

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5
化学会館4階
社団法人新化学発展協会研究奨励金 係
TEL(03)3294-8031、FAX(03)3294-8034
E-mail asprnc@infoweb.ne.jp
URL <http://web.infoweb.ne.jp/asprnc/asprnc.htm>

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第12回トヨタコンファレンス公開講演会

「21世紀における地球生命圏の危機に向けて—植物科学・農業科学はどう挑戦するか—」

日時: 1998年11月30日(月) 13:30~16:30
 会場: トヨタ自動車(株)東京本社ビル大会議室 (B1 F) (文京区後楽 1-4-18)
 参加費: 無料(先着250名、事前申込制)
 主催: 第12回トヨタコンファレンス組織委員会
 協賛: トヨタ自動車(株)
 プログラム:
 13:30 主催者挨拶
 駒嶺穆(第12回トヨタコンファレンス組織委員会委員長、(株)進化生物学研)
 13:35 講演①
 第12回トヨタコンファレンスからの提言: 21世紀の生命圏を守る植物科学・農業科学
 渡邊和男(近畿大)
 14:05 講演②
 21世紀に予想される食料不足と日本の対応
 森島 賢(立正大)
 14:50 休憩
 15:00 講演③
 Gene studies for developing an environmentally acceptable agriculture and a good forest management (環境に優しい農業と森林保全のための遺伝子研究)
 M. Van モンタギュー(ゲント大)
 15:45 講演④
 新しいイネを作る—バイオ技術と従来技術の融合—
 藤村達人(筑波大)
 16:30 閉会
 問合・申込先:
 トヨタコンファレンス公開講演会事務局
 〒480-1192 愛知県長久手町
 (株)豊田中央研究所
 TEL(0561) 63-6131、FAX(0561) 63-6298

○千里ライフサイエンスセミナー

「糖尿病性合併症の分子機構とその治療戦略—beyond glucose—」

日時: 1998年12月1日(火) 10:00~16:10
 会場: 千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール(豊中市新千里東町1-4-2)
 主催: (株)千里ライフサイエンス振興財団
 協賛: (株)千里ライフサイエンスセンター
 コーディネーター: 吉川隆一(滋賀医大・医)
 プログラム:
 1. AGEとその受容体 山本 博(金沢大・医)
 2. 酸化ストレス—脂質過酸化物の意義
 大澤俊彦(名大・院生命農)
 3. 神経障害の発症メカニズムとそれへの対応
 堀田 饒(名大・医)
 4. 糖尿病性腎症の発症機構とその治療戦略
 羽田勝計(滋賀医大・医)
 5. 糖尿病網膜症の発症機序と治療
 梅田文夫(九大・医)
 参加費(講演要旨集合):
 会員(大学、官公庁、主催・協賛団体会員) 6,000円
 非会員 8,000円
 学生 3,000円
 定員: 300名
 参加申込方法:
 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAXを明記のうえ、郵便またはFAXで下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金No.128278財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込み下さい。なお振込みの際、振込者名の前にM1とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付します。
 申込先:
 (株)千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係
 (担当: 松本)
 〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
 千里ライフサイエンスセンタービル8階
 TEL(06) 873-2001、FAX(06) 873-2002

○さきがけ研究21研究報告会「遺伝と変化」領域 Symposia'98

—若手研究者の新しい生物学への挑戦—

日時: 1998年12月14日(月) 10:15~19:00
 場所: 東京ガーデンパレス
 (JR御茶ノ水より徒歩5分)
 主催: 科学技術振興事業団さきがけ研究21「遺伝と変化」領域
 領域総括: 豊島久真男(大阪府立成人病センター総長)
 参加費: 無料(定員200名)
 趣旨:
 当事業団は基礎的研究推進事業の一環として、21世紀の科学技術の芽を創るため、「独創性のある個人研究者を身的にも、研究費の上でも3年間にわたり保障することによって、その独創性の芽を育てる」さきがけ研究21(PRESTO)を推進しています。このうち「遺伝と変化」領域は分子生物学をはじめ新しい生物学へ挑戦する研究領域として1994年に発足しました。本シンポジウムでは本年度終了の研究者10名による3年間(1995~1998)の研究成果を発表いたします。
 プログラム:(発表討論30分、ポスター掲示)
 閉会の辞 豊島久真男(領域総括)
 1. 新しい遺伝子探索システム開発とその応用
 相垣敏郎(都立大・理)
 2. 父親、母親に由来するゲノムの機能的差異
 石野史敏(東京工大・遺伝子)
 3. 膜結合型増殖因子によるジャクスタクライン
 岩本 亮(久留米大・分子生命)
 4. 染色体再編の分子メカニズムを探る
 梅津桂子(奈良先端大・バイオ)
 5. 免疫系の多様性を産み出す分子基盤

後飯塚僚 (東京理大・生命研)

6. 細胞はどのようにして動くか

佐邊壽孝 (大阪バイオ研)

7. CD4 サイレンサーの機構

澤田新一郎 (理研・筑波セ)

8. TAK1 は Xenopus 初期発生 の背腹軸形成に
関与する

澁谷浩司 (基生研)

9. Wnt/Wingless シグナルの新たなコンポーネン
トの同定

濱田文彦 (阪大・微研)

10. トランスジェニックゼブラフィッシュによる神
経回路網の可視化

東島眞一 (基生研)

交流会:

シンポジウム終了後、さきがけ研究者とのトークおよ

び懇親会を行います (17:30~19:00)。学生1,000円、
一般の方3,000円 (当日徴収)。

参加方法:

一般公開です。大学院生をはじめ若い研究者の方々の
積極的な参加を歓迎いたします。参加ご希望の方は葉書、
TEL または FAX で、氏名・所属・連絡先をお知らせの
うえ、11月30日(月)必着でお申込み下さい。参加証は発
行しません。

問合・申込先:

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7

けいはんなプラザ ラボ棟5階

科学技術振興事業団「遺伝と変化」領域事務所

TEL(0774) 95-5173、FAX(0774) 95-5179

○第13回「大学と科学」公開シンポジウム『生き物の形づくり』

会 期: 1999年1月22日(金)、23日(土)

会 場: 神戸国際会議場(神戸市中央区港島中町6-9-1)

主 催: 第13回「大学と科学」公開シンポジウム組織委
員会

後 援: 文部省、学術情報センター、日本学術振興会
放送大学学園、経済団体連合会、日本発生生物
学会、日本分子生物学会、日本細胞生物学会、
(株)日本動物学会、日本遺伝学会、(株)日本生化学
会、日本解剖学会、日本神経科学学会、日本神
経化学会、日本組織工学会、日本比較生理生化学
学会、日本比較内分泌学会、日本動物分類学会

1999年1月22日(金):

10:00~10:10 挨拶

第13回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会、
文部省

10:10~10:50 特別講演

司会: 藤澤 肇 (名大・院理)

生物の体はどのように成り立っているのか

竹市雅俊 (京大・院理)

10:50~14:50

生物の基本的なかたちはどのように決まるのか

司会: 佐藤矩行 (京大・院理)

10:50~12:00

卵が持つ形づくりの情報 小林 悟 (筑波大・生物)

形づくりのスタート: 胚葉の形成

浅島 誠 (東大・院総合文化)

12:00~13:20 休憩

13:20~14:30

背と腹を決めるしくみ 上野直人 (基生研)

左と右を決めるしくみ 濱田博司 (阪大・細生工セ)

14:30~14:50 討論

14:50~15:10 休憩

15:10~16:30 形づくりの研究に必要な遺伝子技術

司会: 黒岩 厚 (名大・院理)

15:10~16:20

形づくりを制御する遺伝子を探す

山村研一 (熊本大・医)

ゲノムプロジェクトと形づくり

小原雄治 (国立遺伝研)

16:20~16:30 討論

1999年1月23日(土):

10:00~13:55

器官の形成: 複雑な形はどのように作られるのか

司会: 濱田博司 (阪大・細生工セ)

10:00~11:45

形づくりと遺伝子の発現

近藤寿人 (阪大・細生工セ)

手足の形を決めるしくみ 黒岩 厚 (名大・院理)

眼を作り出すしくみ

安田国男 (奈良先端大・バイオ)

11:45~13:00 休憩

13:00~13:35

神経ネットワークを作り出すしくみ

藤澤 肇 (名大・院理)

13:35~13:55 討論

13:55~14:10 休憩

14:10~16:10 生物の形と進化

司会: 浅島 誠 (東大・院総合文化)

14:10~15:55

ブラナリアの形づくり 渡辺憲二 (姫路工大・理)

脊椎動物の原型ーホヤの形づくり

佐藤矩行 (京大・院理)

形を決める遺伝子と生物の進化

相沢慎一 (熊本大・医)

15:55~16:10 討論

16:10~16:50 特別講演

司会: 山村研一 (熊本大・医)

老化と死を制御するしくみ 鍋島陽一 (京大・院医)

申込先:

第13回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

〒100-0013 千代田区霞ヶ関3-2-2

文部省学術国際局学術情報課気付

TEL(03) 3581-4211 (内線2591)、

FAX(03) 3506-0769

第13回「大学と科学」公開シンポジウム

『生き物の形づくり』事務局

〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19ミズノビル4階

中日本装備(株)内

TEL(052) 322-1700、FAX(052) 322-1760

E-mail: nns@tcp-ip.or.jp

聴講費: 無料

聴講申込方法:

シンポジウム名『生き物の形づくり』・氏名・住所(自
宅か勤務先を明記)・職業(勤務先における職務)をご
記入のうえ、葉書、FAX、またはE-mailにてお申込み
下さい。

第13回「大学と科学」公開シンポジウム[ホームページ]:

<http://www.mesh.ne.jp/kuba/>

○日本学術会議生物系薬学研究連絡会議シンポジウム「分子生物学と環境」

日 時：1999年1月30日（土）13：00～18：00
会 場：石川厚生年金会館（金沢市石引4-17-1）
（シンポジウム後の懇親会もこちらです。）
共 催：日本薬学会、日本生化学会、日本分子生物学会
参加費：無料
プログラム：
挨拶 橋本嘉幸（日本学術会議第7部会員、生物系薬学
研究連絡委員会委員長、(助)佐々木研）
哺乳類の時計遺伝子 Perl の分子生物学
程 肇（東大・医科研・ヒトゲノム解析セ）
個体老化の分子機構
鍋島陽一（阪大・細生工セ、京大・医、
国立精神神経セ・神経研）
プリオンと神経疾患 片峰 茂（長崎大・医）

遺伝子改変・導入細胞およびマウスを用いた変異原、癌
原物質の評価系の構築

能美健彦（国立衛研・安全性生物試験研セ）
ダイオキシンの発毒性 米元純三（国立環境研）
情報環境と人間の行動—現代の社会病理との関係におい
て— 小田 晋（国際医療福祉大）

参加方法：
葉書に氏名、勤務先、職名、連絡先（住所、TEL、
FAX）を明記のうえ下記宛お申込み下さい。定員を超
える場合は先着順とし、お断りする場合のみ連絡します。
連絡先：

〒920-0934 金沢市宝町13-1
金沢大学薬学部生物系薬学研究連絡委員 大熊勝治
TEL(076) 234-4463、FAX(076) 234-4462

○東北大加齢研/CREST シンポジウム「Fc レセプターの基礎と臨床」 (The IDAC/CREST Joint Symposium on Fc Receptors: From the Biology to Clinical Aspects)

日 時：1999年2月24日（水）9：00～
会 場：東北大学良陵会館記念ホール
（仙台市青葉区星陵町）
共 催：東北大学加齢医学研究所、東北大学加齢医学研
究所研究会、科学技術振興事業団戦略的基礎研
究（CREST）推進事業
後 援：財団法人厚生会・ヒメル咲子癌制圧基金
シンポジウム参加費：無料（懇親会参加費6,000円）
〈セッションA〉Fc レセプターの生物学
（司会：羅、高井）

Fc レセプター欠損マウスの解析
高井俊行（東北大・加齢研）
マスト細胞の高親和性 IgE レセプター（FcεRI）を介す
るシグナル伝達 山下俊之（北大・院薬・衛生化）
Fc レセプターによる抑制性シグナル伝達
小野栄夫（東北大・加齢研）
Fc レセプター活性化における β 鎖の役割
平岡秀一（順天堂大・アトピー疾患研セ）
FcRγ 鎖および CD3ε 鎖を介した NK 細胞の活性化機構
荒瀬 尚（千葉大・院医・遺伝子制御）
〈セッションB〉イムノグロブリンと炎症・アレルギー
（座長：中畑、柳原）
ヒト肥満細胞の大量培養法の確立と肥満細胞表面の
FcεRI の発現調節の解析
中畑龍俊（東大・医科研・癌病態）
呼吸器疾患における Fc レセプターの役割
長谷川好則（名大・医・1内）
糸球体腎炎と Fc レセプター
鈴木佑介（順天堂大・アトピー疾患研セ）
ヒト IgA レセプターの発現制御機構

下川敏文（順天堂大・アトピー疾患研セ）
IgE とアレルギー

柳原行義（国立相模原病院・臨床）
Fc レセプターを介する血管炎の発症機序

“Induction mechanism of Fc receptor-mediated vasculi-
tis” 斎藤 隆（千葉大・院医・遺伝子制御）
アレルギー性結膜炎と Fcγ レセプター

濱田宗雄（参天製薬・奈良眼科研）
ヒト好塩基球と Fc レセプター

谷本 安（岡山大・医2内）
Fcγ レセプターの多型性と歯周患易感受性について

小林哲夫（新潟大・歯・2 歯科保存）
〈特別講演〉（司会：原 耕二、新潟大・歯）

「Human Fc receptors and their clinical aspects」
Jan G. J. van de Winkel（オランダ Utrecht 大・病院）

〈懇親会〉18：00～
参加申込方法：

シンポジウム参加、懇親会参加申込書と題記し、氏
名、連絡先（勤務先、所属）、TEL、FAX を明記のう
え FAX または E-mail にてご連絡下さい。

本シンポジウムは第21回加齢研シンポジウムと
CREST プロジェクト「Fc 受容体を介する生体防御シ
ステムの解析」平成10年度シンポジウムを兼ねていま
す。

問合せ先：
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1
東北大学加齢医学研究所遺伝子導入研究分野
（世話人）高井俊行
TEL(022) 717-8501 FAX(022) 717-8505
E-mail: ntakagi@idac.tohoku.ac.jp

○国際シンポジウム「両生類生物学の研究最前線」 The Frontiers for the Biology of Amphibia

特別招待講演のほか一般講演（ポスター）が予定され
ています。世界で両生類を使って研究をしている第一線
の研究者も参加する予定です。

会 期：1999年3月22日（月）～24日（水）
会 場：広島国際会議場（広島市中区中島町）
参加費：5,000円（懇親会費5,000円）

発表申込締切日：1998年11月末日

発表・参加方法：
住所、氏名、所属、TEL、FAX、E-mail アドレスを
明記のうえ、下記連絡先まで申込んで下さい。申込用紙
をお送りします。詳細は下記に問合せて下さい。

連絡先：

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1
広島大学理学部附属両生類研究施設

国際シンポジウム事務局

TEL(0824) 24-7482、FAX(0824) 24-0739
E-mail: msumida@ipc.hiroshima-u.ac.jp

○ICSDT 第1回国際会議

The First International Conference on Control and Diseases of Sodium Dependent Transport Proteins and Ion Channels (1st ICSDT)

日時：1999年8月24日(火)～28日(土)
会場：静岡県コンベンションアーツセンター
(Gran Ship)(静岡市)

主催：ICSDT 組織委員会

後援：日本分子生物学会 ほか

Topics to be discussed as follows:

- Cellular and Molecular Basis of Function
- Structure and Function
- Signal Transduction
- Gene Expression and Control
- Cell Cycle and Control
- Evolution and Apoptosis
- Clinical Investigation
- Drug Design

- Endocrinology, Physiology, Pharmacology and Toxicology
- Enzymology
- Diseases and Mechanism (Cystic Fibrosis, Diabetes Mellitus, Down Syndrome, Hypertension, Liddle Syndrome, Rickets, and so on)

事務局：1st ICSDT Office Yasunobu Suketa

Department of Environmental Biochemistry
and Toxicology
University of Shizuoka School of Pharmaceutical
Science,
52-1 Yada, Shizuoka, Shizuoka 422
TEL(054) 264-5673, FAX(054) 264-5672
E-mail: suketa@ys7.u-shizuoka-ken.ac.jp

○理化学研究所脳科学総合研究センター「脳を守る領域」チームリーダー公募

理研脳科学総合研究センターは「脳を知る」、「脳を守る」、「脳を創る」の3領域での脳科学研究を総合的に進めるために1997年10月に発足しました。「脳を守る」領域は脳の病気の克服を目標に、脳の発達障害と老化の制御、神経精神障害の修復と予防の研究を行います。この度「脳を守る」領域のチームリーダー2名を下記の要領で公募します。

研究分野：

1) 脳の老化、2) 神経変性疾患と神経細胞死、3) 精神疾患、4) 発達異常、の何れかの病因解明をめざす研究。

研究チーム：

チームの構成は研究員、テクニカルスタッフを含めて5～10名からなり、そのチーム全体の研究費は保証されます。チームリーダーの雇用の任期は5年で、その後は評価結果により再任が可能です。チームは1998年度中に発足予定です。なお、「脳を守る」領域ですでに発足している関連チームには次のものがあります。

- CAG リポーター病研究 (貫名信行 TL)

- アルツハイマー病研究 (高島明彦 TL)
- 神経遺伝研究 (山川和弘 TL)
- 神経蛋白制御研究 (西道隆臣 TL)

詳細についてはホームページ (<http://www.riken.go.jp>) を参照して下さい。

応募方法：次の1)～4)の書類を揃えて下記の連絡先に送付して下さい。

- 1) 履歴書
- 2) 業績リスト (発表論文リスト等)
- 3) 研究上の興味および当研究センターにおける研究計画の概要 (4,000字以内)
- 4) 推薦者リスト3名 (氏名、連絡先)

応募締切日：1998年12月15日(火)

送付・問合せ先：

〒351-0198 和光市広沢 2-1

理化学研究所脳科学総合研究センターサーチ委員会(7)
FAX(048) 462-4796
E-mail: search7@brain.riken.go.jp

○お茶の水女子大学理学部生物学科教官公募

公募人員：教授または助教授 1名

研究・教育分野：

植物科学の学問領域において分子生物学的手法を主とした研究・教育を推進できる方。生物学科の現教官とその研究分野についてはホームページ (<http://www.ocha.ac.jp/>) をご参照下さい。着任後は、理学部生物学科に所属し、学部および大学院(博士課程前・後期)における実習および講義、学部4年生の卒業研究、大学院生の研究指導を担当していただきます。資格：博士の学位を有し、30代後半から50代前半までの方が望まれています。

応募書類：

- (1)履歴書、(2)業績リスト、(3)主要論文の別刷りまたはコピー(業績リストの該当番号に○を付けて下さい)、(4)現在までの研究の概要と将来の研究計画、(5)お茶の水

女子大学着任後の教育に関する抱負、(6)推薦書2通

応募締切日：1998年12月10日(木) 必着

着任時期：1999年4月1日

書類送付先・問合せ先：

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学理学部生物学科 主任 根本心一

TEL/FAX(03) 5978-5369、

E-mail: snemo@cc.ocha.ac.jp

または、人事選考委員長 室伏きみ子

TEL/FAX(03) 5978-5362、

E-mail: murofush@cc.ocha.ac.jp

その他：

封筒には「生物学科教官応募書類在中」と朱書き、書留で郵送願います。選考の過程で、当学科構成員との面談やセミナーをお願いする場合があります。

◆ GENES TO CELLS 編集者の変更について

本誌の発刊以来3年近くなりました。この間の皆様のご支援に深謝いたします。

10月号も刊行され、順調に雑誌の刊行ができる見通しがつきました。論文の質は満足してよいものと存じています。解決されていない、ただ一つの問題は期待されただけの投稿がないことです。昨年第3巻の刊行に当たって、日本からの編集者の一部を入れ替えました。この度、第4巻の刊行にあたり、特に外国からの編集者を大幅に変更し、この点での改善を心掛けております。新しい編集者として、現在活発に研究をしている、比較的若い方々の参加をお願いし、賛同を得ております。ここでは、次期編集者の名簿を記すとともに、重ねて皆様のご投稿をお願いする次第です。今回の変更は Associate Editors に限り、Editors に変更はありません。

富澤 純一
Editor in Chief
GENES TO CELLS

新しく参加される編集者 (NEW ASSOCIATE EDITORS)

Corneria Bargmann (olfaction/axon guidance/nematode)

Dept. of Anatomy, Univ. of California, San Francisco, CA 94143-0452, USA
E-mail: cori@itsa.ucsf.edu

Konrad Basler (development of Drosophila appendages)

Zoologisches Institut, Universität Zurich-Irchel, Winterthurerstrasse 190, Zurich, CH-8057, Switzerland
E-mail: basler@zool.unizh.ch

Douglas Bishop (recombination/repair/meiosis)

Dept. of Radiation & Cellular Oncology, Rm O-057, Univ. of Chicago Medical Center, 5841 S. Maryland Ave., MC 1105, Chicago, IL 60637, USA
E-mail: dbishop@midway.uchicago.edu

Dirk Bohmann (cJun/Drosophila genetics)

European Molecular Biology Laboratory, Meyerhofstr. 1, 69117 Heidelberg, Germany
E-mail: bohmann@embl-heidelberg.de

Stephen Buratowski (eukaryotic transcription/mRNA capping)

Harvard Medical School, Dept. of Biological Chemistry & Molecular Pharmacology, Bldg. C1, Room 210, 240 Longwood Avenue, Boston, MA 02115, USA
E-mail: steveb@warren.med.harvard.edu

William Chia (neuronal development/diversity/identity)

Institute of Molecular and Cell Biology, National Univ. of Singapore, 30 Medical Drive, Singapore 117609
E-mail: mcbwchia@mcbgs1.imcb.nus.edu.sg

Tom Curran (neurodevelopment/signaling/gene regulation)

Dept. of Developmental Neurobiology, St. Jude Children's Research Hospital, 332 N Lauderdale St., Memphis, TN 38105-2794, USA
E-mail: fos1@aol.com

Alan D. D'Andrea (cytokine/tyrosine kinase/Fanconi America)

Dept. of Pediatric Oncology, Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School, 44 Binney Street, Boston, MA 02115, USA

Xing-Wang Deng (light regulation/plant development)

Dept. of Molecular, Cellular and Developmental Biology, Yale Univ., P.O.Box 6666, 165 Prospect Street, New Haven, CT06520-8140, USA
E-mail: xingwang.deng@yale.edu

Claude Desplan (early development/retinal patterning)

Howard Hughes Medical Institute, The Rockefeller University, 1230 York Avenue, Box 151, New York, NY 10021-6399, USA
E-mail: desplan@rockvax.rockefeller.edu

Richard A. Flavell (apoptosis/signaling/immunology)

Section of Immunology, School of Medicine, Yale Univ., 310 Cedar St., FMB 412, P.O. Box 208011, New Haven, CT 06520-8011, USA
E-mail: richard.flavell@qm.yale.edu

Michael O. Hengartner (apoptosis/neurobiology/nematode)

Cold Spring Harbor Laboratory, P.O. Box 100, 1 Bungtown Road, Cold Spring Harbor, NY 11724, USA
E-mail: hengartn@cshl.org

- Tatsuya Hirano (chromosome structure & function/cell cycle)
Cold Spring Harbor Laboratory, P.O. Box 100, 1 Bungtown Road, Cold Spring Harbor, NY 11724, USA
E-mail: hirano@cshl.org
- Yasushi Hiromi (developmental patterning/neurobiology)
National Institute of Genetics, Mishima, Shizuoka 411-8540
E-mail: yhiromi@lab.nig.ac.jp
- Nic Jones (oxidative stress/signaling)
Imperial Cancer Research Fund, P.O. Box 123, 44 Lincoln's Inn Fields, London WC2A 3PX, UK
E-mail: jonesn@icrf.icnet.uk
- Nancy Kleckner (yeast meiosis/replication control)
Dept. of Biology and Cellular Biology, Harvard Univ., Cambridge, MA 02138, USA
E-mail: kleckner@husc.harvard.edu
- Yuri Lazebnik (cancer biology/apoptosis)
Cold Spring Harbor Laboratory, 1 Bungtown Road, Cold Spring Harbor, NY 11724, USA
E-mail: lazebnik@cshl.org
- Victoria Lundblad (reverse transcription/telomere)
Dept. of Molecular and Human Genetics, Baylor College of Medicine, One Baylor Plaza, Houston, TX 77030, USA
E-mail: lundblad@bcm.tmc.edu
- Richard I. Morimoto (chaperons and protein folding/stress-response)
Dept. of Biochemistry, Molecular Biology & Cell Biology, Northwestern Univ., 2153 North Campus Drive, Evanston, IL 60208, USA
E-mail: r-morimoto@nwu.edu
- Yoshihiro Nakatani (transcription/histone acetylation)
Lab. of Molecular Growth Regulation, Natl. Inst. of Child Health and Human Development, Bldg. 6, NIH, Bethesda, MD 20892, USA
E-mail: yoshi@helix.nih.gov
- Alain Nicolas (recombination/repair/meiosis)
Institut Curie, Section de Recherche, 26 rue d'Ulm, 75231 Paris Cedex 05, France
E-mail: anicolas@curie.fr
- Garry P. Nolan (gene transfer/HIV-1)
Dept. of Molecular Pharmacology & Department of Microbiology and Immunology, Stanford Univ., School of Medicine, Stanford, CA 94305-5332, USA
E-mail: gnolan@cmgm.stanford.edu
- Carol Prives (tumor suppressor/p53)
Dept. of Biological Sciences, Columbia Univ., New York, NY 10027, USA
E-mail: prives@cubsp.bio.columbia.edu
- Joan V. Ruderman (mitosis/oocyte)
Dept. of Cell Biology, Harvard Medical School, Boston, MA 02115, USA
E-mail: ruderman@warren.med.harvard.edu
- Paul Russell (cell cycle/checkpoints/stress response)
Dept. of Molecular Biology, MB3, The Scripps Research Institute, 10550 North Torrey Pines Road, La Jolla, CA 92037, USA
E-mail: prussell@scrips.edu
- Haruo Saito (protein kinase/phosphatase/stress response)
Dana-Farber Cancer Institute, Dept. of Biological Chemistry and Molecular Pharmacology, Harvard Medical School, Boston, MA 02115, USA
E-mail: haruo_saito@MacMailGW.dfci.harvard.edu
- Paolo Sassone-Corsi (transcription oncogenes/signaling)
Institut de Genetique et de Biologie Moleculaire et Cellulaire, B. P. 163, 1 rue Laurent Fries, 67404 Illkirch-Strasbourg, France
E-mail: paolosc@titus.u-strasbg.fr
- John Schiefelbein (plant development/cell fate/differentiation)
Dept. of Biology, 830 North University Avenue, Univ. of Michigan, Ann Arbor, MI 48109-1049, USA
E-mail: schiefel@biology.lsa.umich.edu
- Howard Schulman (protein phosphorylation/calcium signaling)
Dept. of Neurobiology, Stanford Braum Research Center, Stanford Univ. School of Medicine, 299 Campus Drive, Stanford, CA 94305-5125, USA
E-mail: schulman@cmgm.stanford.edu
- Konstantin Severinov (RNA polymerase)
Waksman Institute, Rutgers, The State Univ. of New Jersey, 190 Frelinghuysen Road, NJ 08854, USA
E-mail: severik@waksman.rutgers.edu
- Takashi Toda (cell cycle/cytoskeleton/yeast genetics)
Lab. of Cell Regulation, Imperial Cancer Research Fund, PO Box 123, 44 Lincoln's Inn Fields, London WC2A 3PX, UK
E-mail: toda@europa.lif.icnet.uk
- Erwin F. Wagner (imprinting/cytokine)
Research Institute of Molecular Pathology, Univ. of Vienna, A-1030 Vienna, Dr. Bohr Gasse 7, Austria
E-mail: wagner@aimp.una.ac.at

David Wallach (TNF/NGF receptor family signaling)
Dept. of Biological Chemistry, Weizmann Institute
of Science, Rehovot 76100, Israel
E-mail: LVWALACH@weizmann.weizmann.ac.il

Junying Yuan (apoptosis/programmed cell death/
caspase/bcl-2)
Dept. of Cell Biology, Harvard Medical School, 240
Longwood Ave., Boston, MA 02115, USA
E-mail: junying_yuan@hms.harvard.edu

引き続き編集者 (ASSOCIATE EDITORS) として参加していただく方々

Denise P. Barlow
Howard Cedar
Joanne Chory
Jonathan A. Cooper
Nancy Craig
Denis Duboule
Stephen J. Elledge
Susan M. Gasser
Rick Gourse
F. G. Grosveld
Carl-Henrik Heldin
Masayori Inouye

Lily Yeh Jan
Stephen C. Kowalczykowski
Steven L. McKnight
Howard A. Nash
Mike O'Donnell
Jacques Pouyssegur
Martine F. Roussel
Richard H. Scheller
Andrew Travers
Ronald D. Vale
Carl Wu

All Associate Editors from Japan

日本分子生物学会 会報

年3回刊行

第61号 (1998年11月)

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所